レジリエンス性高い住まいづくりへ提案

台風による被害ゼロ 栄住産業の屋上庭園『OSORAリビング』

こと数年、大きな自然災害が相次いでいる。なかでも、昨年の台風15号と19号は、千葉県を中心とした東日本をはじめ、全国に甚大な被害をもたらした。特に、屋根の被害は大きく、応急処置としての、多くの住宅の屋根が、ブルーシートに覆われた。

これまでは、台風と言えば九州に上陸することがほとんどだったが、現在は、日本全国どこに上陸してもおかしくない状況。しかも、気候変動のせいか、これまでとは異なる季節に発生することも増えてきている。地球温暖化の影響による海水温の上昇によって、台風は大型化してきており、今まで以上の備えが求められている。

一昨年の台風21号では、関西地方で多くの台風被害が発生し、修理が追い付かず1年以上ブルーシートのままの住宅も少なくなかった。さらに、昨年も台風による屋根被害が拡大した。住宅のレジリエンス性（強靭化）を高める観点から、屋根の在り方も改めて考えていく必要があるのではないだろうか。

バルコニーの防水や屋根の利活用を手掛けてきた㈱栄住産業（本社：福岡市、宇都和光社長）によると、同社が提案する屋上庭園『OSORAリビング』は、これまで全国約1万棟の実績があるが、近年の台風による被害が一切発生していないという。

台風による被害が多かった地域で、同社が改めて確認したところ、同社の屋根は、屋根材である鋼板をしっかり下地と密着させているため、屋根材の下に風が入りにくいことが分かった。

さらに、『OSORAリビング』は屋根を利用するようにできているため、四方を高さ1100㎜以上のパラペットで囲っていることから、屋根に風が直接ぶつからないことなどから、屋根の被害が発生しないと考えられるとしている。パラペットが壊れるほどの強風が直撃しない限り、屋根が吹き飛ぶことはないと思われる。

点検も容易 地震にも強い

また台風が襲来する前や去った後、お施主様が屋根に登って点検することは非常に危険だ。昨年の台風被害ではブルーシートを張ろうとして屋根から転落する事故が相次ぎ、亡くなった方もいる。建設業では転落・墜落事故が最も多く、屋根の上での作業は、専門家でも危険が伴う。

その点、陸屋根の『OSORAリビング』は、ドアを開けて簡単に点検することが可能で、フラットなため転落する危険もない。

また、レジリエンス性の観点からは、台風だけでなく、頻発する地震への備えも住宅には求められている。栄住産業の屋根は、1mごとにエキスパンションがあり、揺れにも強い構造になっている。重量も和瓦の16分の一と軽いため、地震の影響も受けにくい。また突発的な水害時も、避難場所や室外機設置場所としてもなりうる。

同社の宇都正行会長は、「屋根空間の緑化や庭園としての利活用の提案に加え、災害に強い屋根としても、地場の工務店様の新たな武器の一つとしてお客様にも提案していただければ」と話している。

栄住産業熊本営業所の外観と屋上。通常時は菜園やベランピングなど癒しの空間として楽しめ、万が一の際は避難場所にもなる。